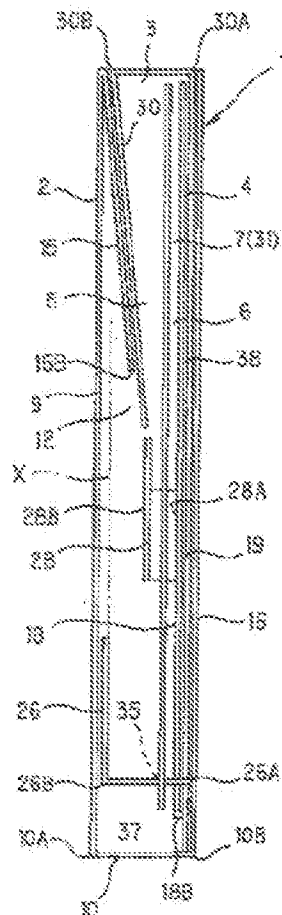


## Patent Abstracts of Japan

TITLE : STORING CONTAINER



COPYRIGHT: (C)2003 JFO



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-81252

(P2003-81252A)

(43) 公開日 平成15年3月19日 (2003.3.19)

(51) Int. Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

テロッド (参考)

B 6 5 D 5/38

B 6 5 D 5/38

Z 3 E 0 3 6

5/49

85/57

C 3 E 0 6 0

85/57

F

5/48

1 0 1 A

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号

特願2001-272924 (P2001-272924)

(22) 出願日

平成13年9月10日 (2001.9.10)

(71) 出願人 000183473

十條セントラル株式会社

東京都新宿区市谷船河原町11番地

(71) 出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72) 発明者 三井 紀彦

東京都新宿区市谷船河原町11番地 十條セ  
ントラル株式会社内

(74) 代理人 100061790

弁理士 市川 理吉 (外2名)

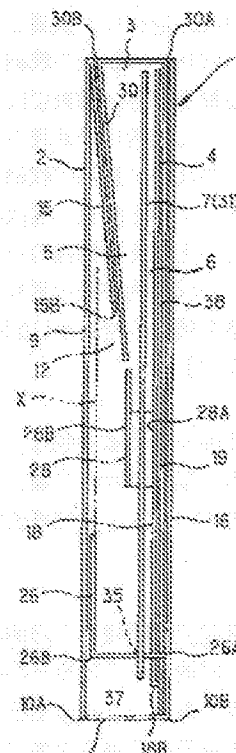
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 収納容器

(57) 【要約】

【課題】 外ケース内に揺動自在に挿入されている内ケースの、正面板と背面板との間の物品収納空間に複数の収納物品を互に接触しないよう区分して収納できるようにすること。

【解決手段】 内ケースの正面板と背面板との間の物品収納空間に内ケースと同一挙動する少なくとも1枚の区画板を挿入する。



#### 【特許請求の範囲】

【請求項1】外ケース内に、その1側端の開口部から引き出し可能に内ケースが収納されている収納容器において、

内ケースの物品収納空間が、引き出し時に内ケースに導かれて同一挙動を示す別体の少なくとも1枚の区画板により、複数に区画されている収納容器。

【請求項2】内ケースの正面板と背面板とが各下端縁の連続部たる屈曲部で連続させられ、区画板の下端縁が前記屈曲部の内側に当接させられている請求項1記載の収納容器。

【請求項3】背面板の下端寄り位置から、正面板の前面と対峙する折曲片が延設されており、各区画板の下端が該折曲片の折曲部内側に当接させられている請求項1に記載の収納容器。

【請求項4】外ケース内にその1側端の開口部から引き出し可能に内ケースが収納されている収納容器において、

両側板を欠く内ケースが正面板とその下端に連続する背面板とで構成されており、正面板の少なくとも1端縁には、正面板に折り重ねられる区画板が延設されている収納容器。

【請求項5】正面板の上縁が、最後列の区画板の上縁より上位か、最前列の区画板の上縁より下位のいずれか一方の位置に設定され、各区画板は、前列の区画板の上縁が後列の区画板の上縁より低くなるごとく設定されている請求項1ないし請求項4の何れかに記載の収納容器。

【請求項6】両側板を欠く内ケースが、正面板とその下端に連続する背面板とで構成されており、該正面板と区画板との、少なくとも何れか1枚の板体の少なくとも1側縁から、収納物品の抱持片が延設されている請求項1ないし請求項5の何れかに記載の収納容器。

【請求項7】正面板及び各区画板には、少なくともその1側縁に斜め上向きに抱持片が延設されている請求項1ないし請求項6の何れかに記載の収納容器。

【請求項8】内ケースの正面板、各区画板には、外ケース内面と干渉しない上部外周周縁のそれぞれ異なる位相位置に、それぞれの収納物の表示耳片が突設されている請求項1ないし請求項7の何れかに記載の収納容器。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、コンパクトディスク等の記録用媒体、写真、カード類、板状小形物品等を複数枚収納するための、主として厚紙製の収納ケースに関する。

##### 【0002】

【従来の技術】前記記録用媒体その他の板状小形物品等を収納する従来の収納ケースは単一の板状小形物品を収納するものが主流であり、2枚以上を重ねて収納すると、記録部或は印画面等に損傷を生ずる恐れがあり、こ

れを防止するため特開2000-25870号公報に示されるごとく、2組の収納ケースを長さ方向に連続させたものも提案されているが、持ち運び、保管、収納物の取り出し等の面で使用感に問題が存する。

##### 【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、従来の記録用媒体等の板状小形物品の収納ケースの前記問題点に鑑み、1個の収納ケースの物品収納空間を、区画板で前後に重なる複数区画に区分し、各区画に収納された物品が互に接触しないようにすることを課題としている。

##### 【0004】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するため、請求項1の発明では、外ケース内に、その1側端の開口部から引き出し可能に内ケースが収納されている収納容器において、内ケースの物品収納空間が、引き出し時に内ケースに導かれて同一挙動を示す別体の少なくとも1枚の区画板により、複数に区画されているという構成要件とした。

【0005】請求項2の発明では、請求項1の発明に、内ケースの正面板と背面板とが各下端縁の連続部たる屈曲部で連続させられ、区画板の下端縁が前記屈曲部の内側に当接させられているという構成要件を付加した。

【0006】請求項3の発明では、請求項1の発明に背面板の下端寄り位置から、正面板の前面と対峙する折曲片が延設されており、各区画板の下端が該折曲片の折曲部内側に当接させられているという構成要件を付加した。

【0007】請求項4の発明では、外ケース内にその1側端の開口部から引き出し可能に内ケースが収納されている収納容器において、両側板を欠く内ケースが正面板とその下端に連続する背面板とで構成されており、正面板の少なくとも1端縁には、正面板に折り重ねられる区画板が延設されているという構成要件とした。

【0008】請求項5の発明では、請求項1ないし請求項4の何れかの発明に、正面板の上縁が、最後列の区画板の上縁より上位か、最前列の区画板の上縁より下位の、いずれか一方の位置に設定され、各区画板は、前列の区画板の上縁が後列の区画板の上縁より低くなるごとく設定されているという構成要件を付加した。

【0009】請求項6の発明では、請求項1ないし請求項5の何れかの発明に両側板を欠く内ケースが、正面板とその下端に連続する背面板とで構成されており、該正面板と区画板との、少なくとも何れか1枚の板体の少なくとも1側縁から、収納物品の抱持片が延設されているという構成要件を付加した。

【0010】請求項7の発明では、請求項1ないし請求項6の何れかに記載の発明に、正面板及び各区画板には、少なくともその1側縁に斜め上向きに抱持片が延設されているという構成要件を付加した。

【0011】請求項8の発明では、請求項1ないし請求

項7の何れかの発明に、内ケースの正面板、各区画板には、外ケース内面と干渉しない上部外周周縁のそれぞれ異なる位相位置に、それぞれの収納物の表示耳片が突設されているという構成要件を付加した。

【0012】

【発明の実施の形態】図1ないし図8は、請求項1ないし請求項3、請求項6ないし請求項8の各発明を併せ適用した実施の一例を示しており、収納容器1は、図8に略示縦断面図として示すごとく、外ケース2内に、その一端の開口部3から内ケース4が引き出し可能に収納され、内ケース4内にコンパクトディスク等の記録用媒体、写真、カード類、板状小形物品等の物品収納空間5、6が、区画板7により区画形成されている。

【0013】前記外ケース2は、図1に示されるブランク8から折り畳み、接着によって図2に示す形状に成形されており、正面板9の下端に、底板10が山折線10A、10Bを介して連続させられ、正面板9の両側には側板11、12が、それぞれ山折線11A、11B、12A、12Bを介して連続させられ、両側板11、12の各外側に接着代13、14延設されている。

【0014】正面板9の上端縁には、内ケース4の引き出しストロークを所定値に限定する係止片15が延設されており、底板10には外ケース2の背面板16が延設されており、前記接着代13、14により正面板14の背面に接着され、また係止片15は正面板14と背面板16との接着に先だて、山折線15Aにより正面板9の裏面側、図1において紙面裏側へ折曲され、図2に示す正面形状とされる。

【0015】内ケース4は、図3に示されるブランク17から折曲形成されるもので、内ケース4の正面板18は背面板19の下辺20に谷折線18A、18Bで連続させられており、また背面板19の下辺20と、正面板18の谷折線18A、18Bの形成されている下辺21（図3においては正面板18の上部）との連続部分の中央域には、左右に間隔を存して縦方向に切り込まれたスリット22、23と、該スリット22、23の図3において下部を連結するスリット24とにより背面板19の下端寄り位置25から後述するごとく正面板18の前面（図3においては背面側）と対峙する折曲片26が切り出されて延設されている。

【0016】正面板18において、中央と、谷折線18A、18Bとの間の両側には外側方へ抱持片27、28が延設され、また図3において正面板18の下縁の右側には表示耳片29が外側方へ突設されている。なお抱持片は正面板18の左右何れか一方にのみ延設されていてもよい。

【0017】前記折曲片26は谷折線26A、26Bにより、後述するように正面板の前面（図3では背面）と対峙するよう折曲され、抱持片27、28もそれぞれ山折線27A、27B、28A、28Bにより、後述する

ように正面板18の前面（図3では背面）と対峙するよう折曲される。

【0018】背面板19の上部には2条の谷折線30A、30Bを介して内ケース4の前覆片30が形成され、前記谷折線30A、30Bで折曲されて背面板17の上部に重なられる。また背面板19の略中央には、背面板19の側縁と直交する山折線19Aが形成されており、収納物取り出し時に背面板19を後方へ折曲させうる。

【0019】内ケース4は、ブランク17から次の手順で折曲形成される。即ち抱持片27、28を各山折線27A、27B、28A、28Bにおいて、紙面裏側へ折り返し、次いで正面板18を谷折線18A、18Bで背面板19の前面と重なるよう折り返し、次に折曲片26を各谷折線26A、26Bで、先に折曲した正面板18の前面と対峙するよう折曲する。この折曲手順で折曲された内ケース4が図4に示される構造であり、前覆片30が谷折線30A、30Bで正面板18の前側面へ折曲されることにより、図8に断面図として略示した構造のものとなる。なお、図3中、正面板18の略中央には谷折線18Cが形成されており、収納物取り出し時に正面板18を前方へ折曲させうる。

【0020】図5は、区画板31の実施の一例であり、図4に示される内ケース4の正面板18の抱持片27、28から上部と同一形状の主板32の下部両側に脚片33、34が下垂され、脚片33、34の間に、下端縁35が凹設されている。図示例では区画板31の全高Hは図3に示す正面板18の全高Hと均等とされ、また主板32の外周縁には、正面板18の表示耳片28と位相を異にして表示耳片36が突設されている。また符号31Aは収納物取り出し時に区画板31を前屈させる谷折線である。

【0021】前記区画板31は、図7、図8に示すごとく、内ケース4の正面板18と抱持片27、28との間に挿入され、区画板31の下端縁35が折曲片26の谷折線26A、26Bで区画された屈曲部37の内面に当接されて定位されている。この区画板31の挿入位置は、図8に示される内ケース4の正面板18と背面板19との間の空間38であってよく、この場合には、脚片33、34の下端が正面板18と背面板19との連続部たる谷折線18A、18Bによる屈曲部の内側に当接されて定位させられる。

【0022】前記抱持片27、28の位置と延設方向とは、収容物を安定して支持できる限りは、請求項1の発明では格別の限定は無いが図3、図4に示されるごとく、請求項7の発明により、斜め上向きに延設することが丸形のコンパクトディスク等を収納する際、収納姿勢の安定のために好ましい。

【0023】この抱持片27、28の折曲方向は、図示例では図4に示すごとく、内ケース4の正面板18の前

面と対峙するよう折曲してもよいことは勿論である。

【0024】また区画板31は、図示例では1枚使用しているが同一形状のものを複数枚使用することも可能であり、また区画板31に抱持片を延設してもよく、正面板18と区画板31との何れか一方にのみ抱持片を延設する構成でもよい。

【0025】図6は異なる実施例たる区画板39を示しており、図5に示す区画板31の脚片33、34に相当する脚片40、41が略矩形状に垂下した形状とされ、更に抱持片42、43が両側に延設されている点で図5に示すものと相違している。符号39Aは収納物取り出し時に区画板39を前倒させる各折線である。

【0026】図9、図10、図11及び図12は、請求項5の発明の実施の一例を示しており、図12に示されるごとく、内ケース44の正面板45の上縁46が、2枚の区画板47、48の各上縁49、50より上位であり、かつ前列の区画板48の上縁50が後列の区画板47の上縁49より低く設定されている。

【0027】前記上縁46、49、50の高さの差は、正面板45、各区画板47、48における抱持片の下端位置Aから脚片51A、51B及び下辺52の下端53、54、55までの長さ $L_1$ 、 $L_2$ 、 $L_3$ を前列になる程短かく設定することにより達成されている。なお、この高さの差は、各区画板47、48の下端縁56、57と前記下端位置Aとの間の長さの差で設定してもよい。

【0028】図10、図11において、脚片51A、51Bの符号51Cで示す部分は、縦方向の折線51Dで折曲し、図9に示される折曲片52Aの屈曲部52Bに跨架させやすくする折片であり、跨架後に旧位に戻し、区画板47、48の組み付け姿勢を安定させる部片である。この実施例では正面板45が最後列とされているが、正面板45を最前列とし、その上縁46が最も低く、最後列の区画板47の上縁49が最も高位を占めるようにしてもよい。この実施例の背面板、前覆板、表示耳片の構造、配置は図3、図4に示すものと同一構造である。

【0029】図13は請求項4の発明の実施の一例を示しており、図13は、内ケース58のブランク59を示しており、図3に示す内ケース4のブランク17と同じく、正面板60、背面板61、抱持片62、63、表示耳片64、折曲片65等を具備しており、正面板60の1端縁、図13では右側縁に区画板66が延設されている点で図3に示すブランク17と相違している。

【0030】区画板66は、正面板60の抱持片62の外郭縁67部分ではスリットにより切り分けられ、抱持片62の上端部（図13では下端部）68から、正面板60の外郭縁69に向って垂下する部分70においてのみ正面板60に連続している。

【0031】図13に示す正面板60、抱持片62、6

3は、図3に示すものと同一手段で折曲、成形されるが区画板66は正面板60の前面と対峙するよう前記部分70において折曲され、正面板60と重ねられ、区画板66の脚片69A、69Bの下端71、72が正面板60と背面板61との谷折線73、74によって形成される折曲部内側で支持される。なお区画板66の上縁（図では下縁）が正面板60より上位（図では下位）となる設計では、区画板66は正面板60の背面と対峙するよう折曲される。なお、背面板の構造は、図3、図4に示すものと同一である。

【0032】同じく請求項4の発明の別の実施例である図14は、内ケース75の正面板76の図14において他端縁即ち左側縁にも区画板77が延設され、正面板76の右側の区画板78と共に2枚の区画板が正面板76に一連に形成されている実施例であり、正面板76に対する区画板77、78の延設位置の相違により、請求項5の発明も適用される。

【0033】この図14に示す実施例では、最初に右側の区画板78が正面板76に折り重ねられ、その上に左側の区画板77が折り重ねられることにより図12に示す折り重ね形状と概ね同一形状とされ、各区画板77、78の位置保持は、正面板76との連続部分79、80において行われる。

【0034】図9、図12、図13及び図14において各背面板の構造は図3及び図8に示すものと同一構造であり、各正面板、各区画板の構造も図3、図5、図6に示すものと概ね同一構造である。

【0035】図15及び図16は、請求項4の発明の更に異なる実施例を示しており、図13及び図14に示される各実施例では、区画板66、77、78が何れも正面板60或は76の端縁のうちの側縁から延設されているが、この実施例では、第1の区画板81が正面板82の端縁のうちの上端縁83、84（図15では下端部）から延設され、第2の区画板85が第1の区画板81の上端縁86、87（図15では下端部）から延設されている点で図13、図14に示す実施例と構造上の相違を有している。

【0036】前記正面板82は、脚片88、89の下端（図15では上端部）で背面板90の下端縁に山折線90A、90Bを介して連続する底板90Cに連続し、該下端縁91から正面板82に向って形成された略倒コ字形のスリット92により、折曲片93が形成されている。

【0037】正面板82は、図4に示される正面板18の半円弧状の上周縁と同等の上周縁94を形成する半円弧状のスリットを切り込まれており、（図15では下向き円弧）該スリットの両側端部には山折線94A、94Bが形成されている。

【0038】前記正面板82と第1の区画板81との間には第1の区画板の延設方向と直交する谷折線96が形

成されており、該谷折線96の形成位置は、山折線94A、94Bの形成位置から延設方向に高さH3を有した位置とされており、この高さH3は、前記下端線91と前記山折線94A、95Bとの間隔H2から図16に示す高さH1、即ち図16に示されるごとく、この実施例が折畳成形された段階で、第1の区画板81の上周縁95を正面板82の上周縁より上位に突出させる高さH1を差し引いた高さに設定されている。

【0039】第1の区画板81は、上周縁95を形成するスリットである半円弧状のスリットを切り込まれており、その両側端部には山折線95A、95Bが形成され、また第2の区画板85との間には、前記谷折線96と平行する各折線97が形成されており、各折線96と各折線97との間隔H4は、前記間隔H2とH3との和に等しくされ、各折線97と第2の区画板85の上周縁98の頂部との間隔H5は、図16に示されるごとく、第1の区画板81の上周縁95より上位に前記上周縁98が位置する適宜長さに設定されている。

【0040】この実施例は、次の手順で折曲形成される。まず各折線97と山折線95A、95Bとを折曲して第2の区画板85を第1の区画板81の背面側（紙面裏側）へ折曲し、ついで各折線96と山折線94A、94Bとを折曲して第1の区画板81を第2の区画板85と共に正面板82の背面側（紙面裏面側）へ折曲する。次に正面板82と折曲片93とを山折線90A、90Bとで第1、第2の区画板81、85と共に背面板90の背面側（紙面裏側）へ折曲し、全体を反転させることにより、図16に示す形態とされる。抱持片99、100は正面板82の前面と対峙するよう折曲される。この実施例においても背面板90、前覆板、抱持片等の構造は既述の他の実施例と同一構造であり、また正面板及び第1、第2の区画板に図12に示すごとく、表示耳片を設けることも可能である。

【0041】各請求項の発明において、外ケースから内ケースを引き出すことにより、内ケースの背面板、正面板、区画板の間に抱持された収納物品が取り出し位置にもたらされるが、内ケースの引き出し位置は、いずれの発明においても、共通的に、内ケースの折曲片26、52A、65、93と、外ケースの係止片15とにより規制されるので、以下図8について、その機能を説明する。内ケース4が外ケース2の開口部3から引き出されると、内ケースの折曲片26が軌跡Xに沿って上昇する。このため外ケース2の係止片15の下端15Bの位置を、外ケースの正面板9の背面との間に軌跡Xを挟む位置に選定しておけば、内ケース4は、折曲片26の上縁が係止片15の下端15Bに接触した位置に係止され、引き出し位置が規制されるし、同様の係止は、抱持片27、28の位置を図8の位置より左寄りに延出した位置とするか或は係止片15の下端15Bの位置を区画板7に近接した位置とすることによっても達成される。

#### 【0042】

【発明の効果】請求項1の発明では、1個の収納容器内の内ケースの物品収納空間が、少なくとも1枚の区画板により、少なくとも2区分されているので、収納されているコンパクトディスク或は写真等の表面同士が接触して損傷するのを良好に防止できる効果を奏するのみでなく、従来の外ケースと内ケースとの組み合わせよりなる収納ケースを連続させたものに比し、独立した物品収納空間を複数有するに拘らず、個々の収納容器の体積増を僅少に留め、しかも収納物品の取り出し、収納の手間は、従来の1個の収納物品用の収納容器と殆ど変わらず、取り扱い性能が著しく向上する効果を奏する。

【0043】請求項2の発明によると、内ケースの正面板と背面板とが連続する下端縁の屈曲部の内側へ区画板の下端縁を挿入し、当接させるのみで、区画板で区分された複数の収納物品を、内ケースの引き出しという動作のみで、同時に取り出し位置にもたすことができ、収納物品の取り出し操作性を著しく向上させる効果を奏する。

【0044】請求項3の発明によると、区画板の支持部を、内ケース引き出し位置の規制部材を兼ねる折曲板をも利用するので、区画板の支持姿勢を、より一層安定させる効果を奏する。

【0045】請求項4の発明によると、区画板が内ケースの正面板の連続一体に成形されているので、内ケースと区画板とのブランクの打ち抜きが1工程で済み、また内ケースの折畳み成形と区画板の組み込みも単一の工程で完了するので製造工程を著しく簡略化しうる効果を奏する。

【0046】請求項5の発明によると、内ケースの正面板と背面板との間が複数の区画板で複数の区画に区画されていても、個々の区画を明確に区分して確認できる効果を奏する。

【0047】請求項6の発明によると、正面板と区画板との少なくとも何れか1枚の、少なくとも1側縁から収納物品を、収納空間内で、抱持板で側方から保持できるので、物品収納状態での収納ケースの運搬等の際、収納物品の側方の変位を防止でき、収納物品の表面と、正面板、背面板及び区画板の表面との摩擦接触を、可能な限り防止できる効果を奏する。

【0048】請求項7の発明によると、請求項6の発明の効果に、収納物品の上下方向への変位も防止できる効果を奏する。

【0049】請求項8の発明によると、個々の収納空間に収納されている物品の種別を、取り出すまでもなく容易に確認させる効果を奏する。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】外ケースのブランクの展開平面図である。

【図2】成形された外ケースの正面図である。

【図3】第1の実施例たる内ケースのブランクの展開平

面図である。

【図4】第1の実施例たる内ケースの前覆片を折曲する前の正面図である。

【図5】区画板の一例の正面図である。

【図6】区画板の別例の正面図である。

【図7】図4に示す内ケースに図5、図6に示す区画板を組み込んだ、図4と同様の正面図である。

【図8】図2に示す外ケースに、1枚の区画板を組み込んだ図4に示す内ケースを挿入した状態を示す略示縦断面図であり、構造を明瞭とするため、必要箇所の寸法を拡大して図示してある。

【図9】別の実施例の内ケースのブランクの展開平面図である。

【図10】図9に示す内ケースに組み込まれる異なる区画板の正面図である。

【図11】図9に示す内ケースに組み込まれる異なる区画板の正面図である。

【図12】図9に示されるブランクから成形された内ケースに、図10、図11に示される区画板を組み込んだ、図4と同様の正面図である。

【図13】異別の実施例の内ケースのブランクの展開平面図である。

【図14】更に異なる実施例の内ケースのブランクの展開平面図である。

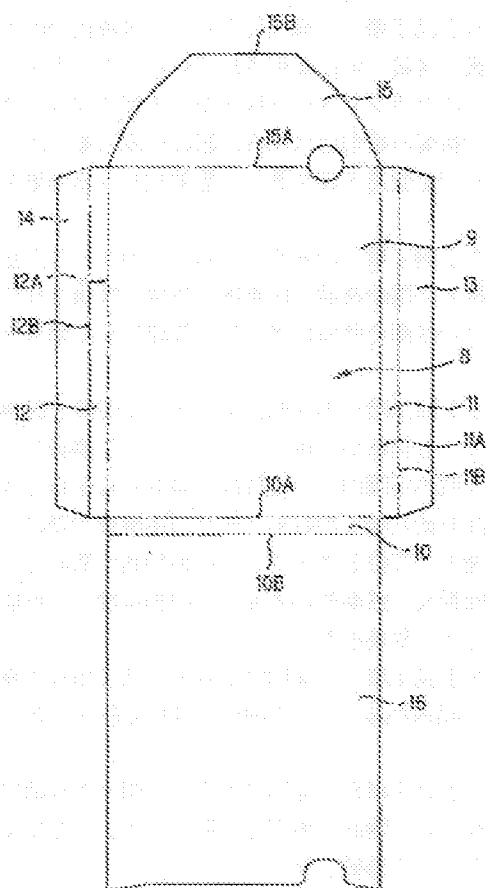
【図15】別の実施例の内ケースのブランクの展開平面図である。

【図16】図13に示すブランクから形成された内ケースの図4と同様の正面図である。

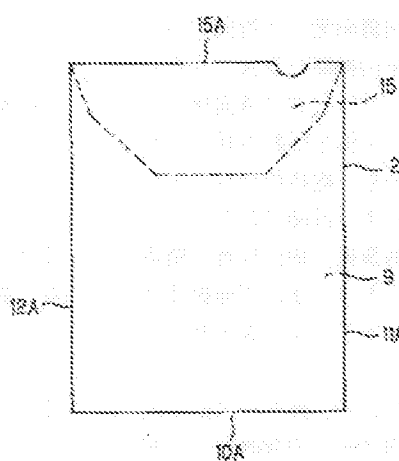
【符号の説明】

- 1 収納容器
- 2 外ケース
- 3 開口部
- 4 内ケース
- 5、6 物品収納空間
- 7 区画板
- 18 内ケースの正面板
- 18A、18B 内ケースの屈曲部を形成する谷折線
- 19 内ケースの背面板
- 27、28 抱持片
- 29 表示耳片

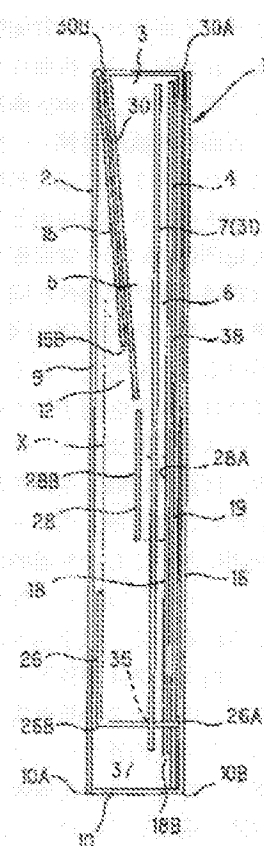
【図1】



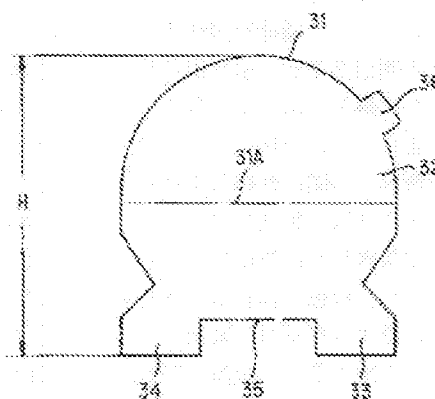
【図2】



【図8】

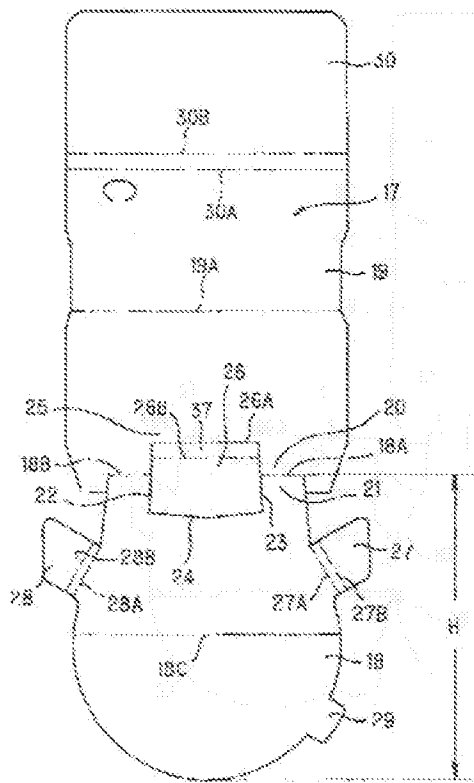


【図5】

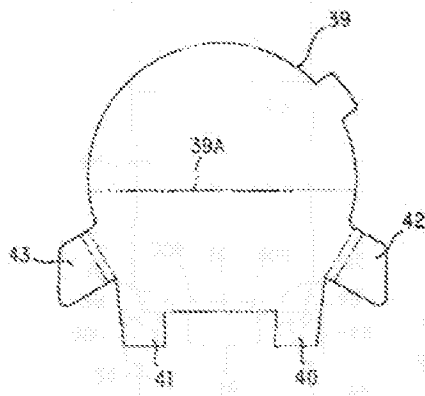




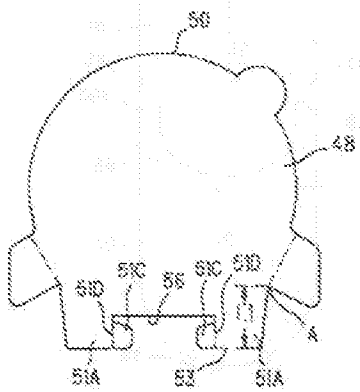
【圖3】



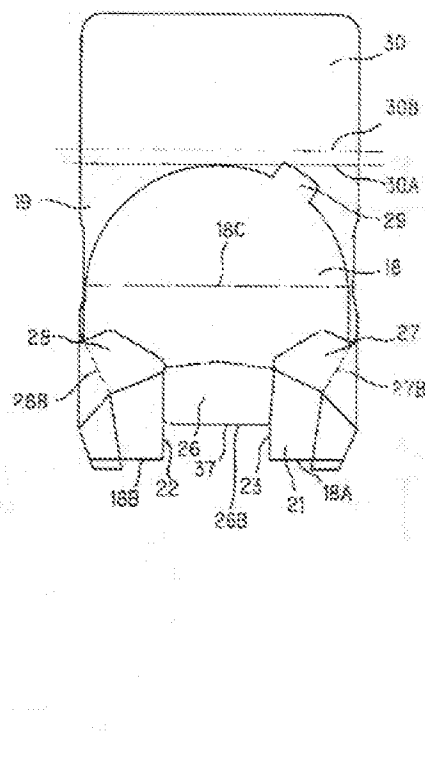
【圖6】



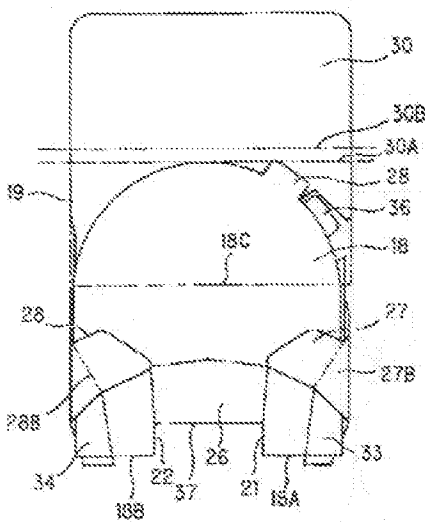
【圖10】



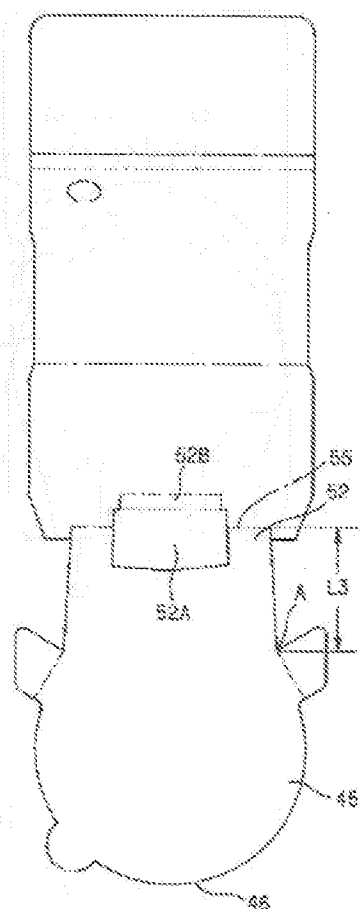
【圖4】



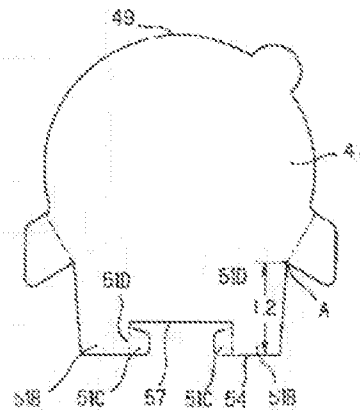
【圖7】



【圖9】

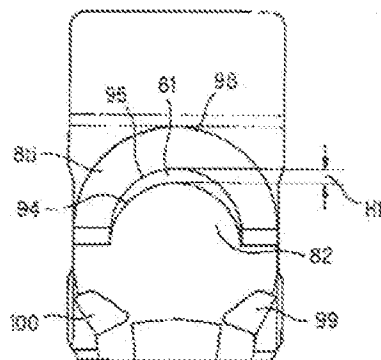


【圖11】





【図16】



フロントページの続き

(72)発明者 東 伸彦  
東京都新宿区市谷飯河原町11番地 十條セ  
ントラル株式会社内

(72)発明者 殿崎 民治  
東京都品川区北品川6-7-35 ソニー株  
式会社内

(72)発明者 織田 竜二  
東京都品川区北品川6-7-35 ソニー株  
式会社内

Fターム(参考) 3E036 AA05 CA01  
3E060 AA03 AB23 AC03 BA02 CC12  
CC17 CC18 CC37 CC42 DA17  
DA30 EA20

